

[068]英語英文学論叢表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1931497>

出版情報：英語英文学論叢. 68, 2018-03-12. Department of English, Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

小谷耕二教授 略歴・業績目録

略 歴

昭和27年 9月21日熊本県生まれ

〈学歴〉

昭和51年 3月 九州大学文学部卒業

昭和53年 3月 九州大学大学院文学研究科修士課程修了

昭和54年 7月 九州大学大学院文学研究科博士課程中途退学

〈職歴〉

昭和54年 8月 徳島大学教養部助手

昭和56年 4月 徳島大学教養部講師

昭和58年 4月 徳島大学教養部助教授

昭和60年 4月 九州大学教養部助教授

昭和63年 4月 九州大学言語文化部助教授

平成11年 9月 九州大学言語文化部教授

平成12年 4月 九州大学大学院言語文化研究院教授（現在に至る）

平成18年 4月 九州大学大学院比較社会文化学府担当（現在に至る）

平成26年 4月 九州大学大学院人文科学府担当（現在に至る）

〈所属学会〉

日本英文学会

日本アメリカ文学会

九州アメリカ文学会

アメリカ学会

日本ウィリアム・フォークナー協会

〈学会役職〉

- 平成10年5月 日本ウィリアム・フォークナー協会評議員（平成25年3月まで）
- 平成14年5月 日本アメリカ文学会大会運営委員（平成16年5月まで）
- 平成15年4月 日本英文学会評議員（平成17年3月まで）
- 平成15年4月 日本英文学会九州支部編集委員（平成29年3月まで）
- 平成16年5月 日本アメリカ文学会代議員・九州アメリカ文学会事務局長（平成19年5月まで）
- 平成19年5月 日本アメリカ文学会編集委員（平成22年5月まで）
- 平成22年5月 日本アメリカ文学会九州支部長・九州アメリカ文学会会長（平成27年5月まで）
- 平成23年4月 日本英文学会評議員（平成25年3月まで）
- 平成23年4月 日本英文学会九州支部理事（平成27年3月まで）

〈学内委員活動〉

- 平成11年12月 『言語文化部の歩み——1994.4～1999.3 平成11年度九州大学言語文化部自己点検・評価報告書（資料編）』 編集作成
- 平成12年3月 『外部評価報告書 九州大学言語文化部自己点検・評価報告書（要約編）』 編集作成

〈集中講義〉

- 平成18年12月 熊本大学文学部
- 平成26年9月 山口大学人文学部

業績目録

〈著書〉

1. 『日本におけるアメリカ南部文学研究書誌、1994-2001』（九州大学大学院言語文化研究叢書 XI） iii + 169頁、平成16年2月〔吉崎泰博と共編著〕
2. 『ことばの楽しみ——東西の文化を越えて』田島松二（編）、南雲堂、平成18年3月（「アンドルー・ライトルと〈旧南部〉の崩壊——短篇「エリコ、エリコ、エリコ」を読む」333-346頁〔論文〕10を改筆して収録〕
3. 『ジョン・ブラウンの屍を越えて 南北戦争とその時代』松本昇、高橋勤、君塚淳一（共編）、金星堂、平成28年3月、（「南部作家とジョン・ブラウン——ロバート・ペン・ウォレン『ジョン・ブラウン伝』を中心に」253-276頁）

〈論文〉（すべて単著）

1. 「William Faulkner: *Absalom, Absalom!* ——その構成と主題について」『Cairn』（九州大学大学院英語学・英文学研究会）20号、57-71頁、昭和52年7月
2. 「William Faulkner: *Light in August* ——自由と疎外」『Cairn』（九州大学大学院英語学・英文学研究会）21号、61-75頁、昭和53年7月
3. 「牧神から孤児へ——Faulknerの初期作品に関する一考察」『徳島大学教養部紀要』第16巻、109-133頁、昭和56年3月
4. 「*Flags in the Dust* における時間と宿命」『徳島大学教養部紀要』第17巻、21-42頁、昭和57年3月
5. 「*The Sound and the Fury* における「動き」と対位法」『徳島大学教養部紀要』第18巻、125-143頁、昭和58年3月
6. 「『死の床に横たわりて』試論——ダールのまなざしと〈作者〉のゆくえ」『英語英文学論叢』（九州大学英語英文学研究会）第36集、55-70頁、昭和61年2月
7. 「スティーヴン・クレイン『赤い武勲章』——アイロニーの戦略」『英語英文学論叢』（九州大学英語英文学研究会）第40集、45-79頁、平成2年2月

8. 『私のアントニア』——聖なるアントニア像とジムの「まなざし」『英語英文学論叢』（九州大学英語英文学研究会）第43集、59-73頁、平成5年2月
9. “The Music Motif in *My Antonia*”『九州アメリカ文学』（九州アメリカ文学会）34号、69-77頁、平成5年12月
10. 「アンドルー・ライトルと〈旧南部〉の崩壊——「エリコ、エリコ、エリコ」を中心に」『英語英文学論叢』（九州大学英語英文学研究会）第44集、37-57頁、平成6年2月
11. 「ウィルバー・J・キャッシュ覚書」『言語文化論究』（九州大学言語文化部）5号、11-22頁、平成6年3月
12. “Rhetoric and Autobiography: Harriet A. Jacobs’s *Incidents in the Life of a Slave Girl*”『九州アメリカ文学』（九州アメリカ文学会）36号、9-22頁、平成7年12月
13. 「フォークナーのリライトイングの方法と歴史意識——『征服されざる人々』における銃のモチーフ」『言語文化論究』（九州大学言語文化部）7号、1-11頁、平成8年3月
14. 「南部史を書き直す——アーネスト・J・ゲインズ『ミス・ジェイン・ピットマンの自伝』」『英語英文学論叢』（九州大学英語英文学研究会）第47集、77-91頁、平成9年2月
15. 「W. J. キャッシュと南部の神話」『言語文化論究』（九州大学言語文化部）8号、77-88頁、平成9年3月
16. 「アレン・テイト『父祖たち』と歴史の「深淵」」『言語文化論究』（九州大学言語文化部）9号、39-49頁、平成10年3月
17. 「『偉大なギャツビー』小考——階級とアメリカの夢」『言語文化論究』（九州大学言語文化部）10号、95-103頁、平成11年3月
18. 「ロバート・ペン・ウォレンの語りの技法と歴史意識——『すべて王の臣』について」『言語文化論究』（九州大学大学院言語文化研究院）16号、29-41頁、平成14年7月
19. 「歴史を書く／歴史のなかで書く——フォークナー『行け、モーセ』と歴史認識」『英語青年』（研究社）第148巻、12号、10-12、33頁、平成15年3月
20. 「歴史叙述とエスニシティ——ウィリアム・スタイロン『ナット・ターナーの告白』をめぐって」『言語文化論究』（九州大学大学院言

- 語文化研究院) 18号、53-61頁、平成15年6月
21. 「J. W. ジョンソン『元黒人の自伝』と「二重意識」『社会開発学をめぐって』(九州大学大学院言語文化研究叢書IX) 徳見道夫(編)、27-35頁、平成16年2月
 22. 「フォークナー、モダニズム、歴史認識」*The Kyushu Review* (九州大学「九州レビュー」の会)、9号、1-14頁、平成16年10月
 23. 「アレン・テイト『父たち』と南部」『英語青年』(研究社) 第150巻、8号、12-14頁、平成16年11月
 24. 「フォークナーと手紙のエクリチュール」『フォークナー』(松柏社) 第9号、50-59頁、平成19年4月
 25. 「恋するジョー・クリスマス——『八月の光』第8章を「短篇」として読む」*The Kyushu Review* (「九州レビュー」の会) 12号、35-45頁、平成20年3月
 26. 「アレン・テイトの伝記作品と南部の文化的自画像——『ストーンウォール・ジャクソン伝』を読む」『言語文化論究』(九州大学言語文化研究院) 28号、193-207頁、平成24年3月
 27. 「モリー・ビーチャムと歴史の書き直し——フォークナー『行け、モーセ』最終章を読む」『言語科学』(九州大学言語文化研究院言語研究会)、48号、31-41頁、平成25年2月
 28. 「アレン・テイト『父たち』再考——南部の文化的自画像を読む」『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会)、63集、43-65頁、平成25年3月
 29. 「『見えない人間』再考——アメリカ文学の伝統とラルフ・エリスンのアメリカ」『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会)、64集、1-17頁、平成26年3月
 30. 「W. A. パーシー『護岸の灯火』——引き裂かれた自己と南部貴族の黄昏」『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会)、66集、1-13頁、平成28年3月
 31. 「フォークナー『村』と南部の文化的自画像」『英語英文学論叢』(九州大学言語文化研究院英語科)、67集、19-32頁、平成29年3月

〈総説・解説・書評〉

1. 「早瀬博範／吉崎邦子(共編)『21世紀から見るアメリカ文学史——

- アメリカニズムの変容』『KALS NEWSLETTER』（九州アメリカ文学会）28号、4－5頁、平成15年12月〔書評〕
2. 「Evelyn Jaffe Schreiber、*Subversive Voices: Eroticizing the Other in William Faulkner and Toni Morrison*」『フォークナー』（松柏社）6号、143－145頁、平成16年4月〔書評〕
 3. 「林文代著『迷宮としてのテキスト——フォークナー的エクリチュールへの誘い』（アメリカ太平洋研究叢書）」『英語青年』（研究社）第150巻、7号、49－50頁、平成16年10月〔書評〕
 4. 「読者の声『マーク・トウェイン 研究と批評』第4号合評」『マーク・トウェイン 研究と批評』（南雲堂）第5号、122頁、平成18年4月
 5. 日本ウィリアム・フォークナー協会（編）『フォークナー事典』（松柏社）、平成20年1月〔“*As I Lay Dying*,” “*On Privacy*,” “*Paris*,” “*Robert Penn Warren*” の項目執筆、および全項目の査読・校閲〕〔解説〕
 6. 「時実早苗著『手紙のアメリカ』」『アメリカ文学研究』（日本アメリカ文学会）45号（2008）、179－180頁、平成21年3月〔短評〕
 7. 「諏訪部浩一著『ウィリアム・フォークナーの詩学 1930－1936』」『英文学研究』（日本英文学会）第86巻、114－119頁、平成21年11月〔書評〕
 8. 「野間正二著『『グレート・ギャツビー』の読み方』」『アメリカ文学研究』（日本アメリカ文学会）46号（2009）、101頁、平成22年3月〔短評〕
 9. 「Christopher Rieger and Robert W. Hamblin, eds. *Faulkner and Warren*.」『フォークナー』（松柏社）6号、200－203頁、平成28年4月〔書評〕

〈研究調査・報告〉

1. “Studies of Southern Literature of America in Japan, 1995”『北九州大学文学部紀要』53号、1－26頁、平成8年7月〔書誌；吉崎泰博と共著〕
2. “Studies of Southern Literature of America in Japan, 1996”『北九州大学文学部紀要』54号、1－22頁、平成9年7月〔書誌；吉崎泰博と共著〕
3. “Studies of Southern Literature of America in Japan, 1997”『北九州大学文学部紀要』56号、1－29頁、平成10年7月〔書誌；吉崎泰博と共著〕
4. 「南部文芸復興期の「歴史」小説に関する文化史的研究」（平成9～10年度科学研究費基盤研究（C）(2)、研究成果報告書、課題番号

09610487) 全27頁、平成11年3月

5. “Studies of Southern Literature of America in Japan, 1998”『北九州大学文学部紀要』58号、167-194頁、平成11年8月〔書誌；吉崎泰博と共著〕
6. “Studies of Southern Literature of America in Japan, 1999”『北九州大学文学部紀要』60号、1-26頁、平成12年8月〔書誌；吉崎泰博と共著〕
7. “Studies of Southern Literature of America in Japan, 2000”『北九州大学文学部紀要』62号、1-25頁、平成13年8月〔書誌；吉崎泰博と共著〕
8. 「日本におけるアメリカ南部文学研究書誌、2001」『言語文化論究』（九州大学大学院言語文化研究院）17号、159-172頁、平成15年2月
9. 「南部文芸復興期の「歴史」小説および自伝に関する文化史的研究」（平成12～14年度科学研究費基盤研究（C）(2)、研究成果報告書、課題番号12610497）、ii + 31頁、平成15年3月
10. 「自伝のエクリチュールと黒人の自己形成に関する文化史的研究」（平成15～17年度科学研究費基盤研究（C）、研究成果報告書、課題番号15520186）、ii + 48頁、平成18年2月
11. 「南部文芸復興期における南部の文化的自画像の持続と変容に関する研究」（平成21～23年度科学研究費補助金基盤研究（C）、研究成果報告書、課題番号21520263）、ii + 51頁、平成24年3月

〈口頭発表〉（すべて単独発表）

1. 「『八月の光』について」日本英文学会第30回九州支部大会（福岡女子大学）、昭和52年11月
2. 「ジョウ・クリスマスのプロット」日本英文学会第32回九州支部大会（西南女学院短期大学）、シンポジウム「『八月の光』の三つのプロット」〔講師〕、昭和54年10月
3. 「*As I Lay Dying* における Faulkner と Darl」日本アメリカ文学会第24回全国大会（三重大学）、昭和60年10月
4. 「ギャツビーの夢とサトペンの夢」日本英文学会第40回九州支部大会（北九州大学）、シンポジウム「*The Great Gatsby* を読む」〔講師〕、昭和62年11月
5. “Rhetoric and Autobiography: Harriet A. Jacobs’s *Incidents in the Life of a Slave Girl*” 第40回九州アメリカ文学セミナー（福岡アメリカンセンター）、平成6年5月〔英語発表〕

6. 「アーネスト・J・ゲインズ『ミス・ジェイン・ピットマンの自伝』——その歴史的ヴィジョンをめぐって」日本英文学会第47回九州支部大会（活水女子大学）、平成6年10月
7. 「歴史を書く／歴史のなかで書く——フォークナーの『行け、モーセ』について」第42回九州アメリカ文学セミナー（福岡女子大学）、平成8年5月
8. 「歴史を書くこと、語ること——Robert Penn Warren の *All the King's Men* について」第46回九州アメリカ文学会大会（福岡大学）、平成12年5月
9. 「南部文芸復興期の「歴史」小説」日本英文学会第53回九州支部大会（福岡女学院大学）、シンポジウム「アメリカ作家と歴史認識」[司会・講師]、平成12年10月
10. 「フォークナー、モダニズム、歴史認識」第50回九州アメリカ文学会大会（西南学院大学）、シンポジウム「モダニズムからポストモダニズムへ」[講師]、平成16年5月
11. 「フォークナーと手紙のエクリチュール」日本ウィリアム・フォークナー協会第9回大会（青山学院大学）、シンポジウム「フォークナー・資料・テキスト」[司会・講師]、平成18年10月
12. 「アメリカ南部文学の人間像——歴史とどう向きあうか」九州大学公開講座（九州大学六本松キャンパス）、平成20年11月
13. 「ラルフ・エリスン『見えない人間』再考——アメリカン・アイデンティティの問題を中心に」、日本英文学会九州支部第63回大会（九州大学箱崎キャンパス）、シンポジウム「アメリカ小説の伝統とアメリカのヴィジョン」[司会・講師]、平成22年10月
14. 「アメリカ南部作家と南部の文化的自画像」九英会英語英文学談話（九州大学箱崎キャンパス）、平成24年2月
15. 「アレン・テイト『父たち』と南部の文化的自画像」九州アメリカ文学会第58回大会（熊本大学）、平成24年5月
16. 「ロバート・ペン・ウォレン『天使の群れ』と白人性」九州アメリカ文学会第61回大会（鹿児島大学）、シンポジウム「アメリカ文学と白人性」[講師]、平成27年5月
17. 「アメリカ文学に見る〈境界〉の政治学」九州大学公開講座（九州大学伊都キャンパス）、平成29年11月

〈教科書〉

1. Kate Chopin ほか、*Between Black and White*、英宝社、157頁（本文123頁、注釈34頁）、平成元年1月〔酒井三千穂と共編注〕
2. J. Canfield & M. V. Hansen (eds.)、*Chicken Soup for the Soul*、金星堂、70頁（本文53頁、注釈17頁）、平成9年1月〔小野和人と共編注〕
3. Kate Chopin、*The Awakening*、開文社、210頁（本文151頁、注釈58頁）、平成10年2月〔浦田和幸と共編注〕
4. Willie Morris、*My Dog Skip*、南雲堂、97頁（本文68頁、注釈29頁）、平成12年11月〔田島松二と共編注〕

〈その他：学術的エッセイ、創作など〉（すべて単独執筆）

1. 「フルブライト外国人講師『アメリカ研究入門』聴講記」『九大教養部報』No. 86、12頁、平成元年11月
2. 「The Old Natchez Trace の話」『KALS NEWSLETTER』（九州アメリカ文学会）7号、3－4頁、平成5年6月〔エッセイ〕
4. 「The Natchez Trace の話」*The Kyushu Review*（「九州レビュー」の会）創刊号、55－57頁、平成8年10月〔〈その他〉2を改筆〕〔エッセイ〕
3. 「文学の「歴史」的効用——村田喜代子とフォークナーの一齣から」*The Kyushu Review*（九州大学「九州レビュー」の会）7号、93－96頁、平成14年10月〔エッセイ〕
4. 「ノエル・ポーク教授来福講演」『KALS NEWSLETTER』（九州アメリカ文学会）30号、1－2頁、平成16年12月〔エッセイ〕
5. 「川をさかのぼる」*The Kyushu Review*（九州大学「九州レビュー」の会）10号、71－74頁、平成17年12月〔エッセイ〕
6. 「わたしのフォークナー体験」『Crossover』（九州大学大学院比較社会文化学府）20号、5頁、平成18年6月〔エッセイ〕
7. 「詩二篇」*The Kyushu Review*（「九州レビュー」の会）12号、65－67頁、平成20年3月〔「勝鬨橋」、「時間の波打ち際で」を収録；筆名、友尻麓〕
8. 「テキストの楽しみ」『KALS NEWSLETTER』（九州アメリカ文学会）41号、1－3頁、平成22年7月〔エッセイ〕
9. 「詩二篇」*The Kyushu Review*（「九州レビュー」の会）13号、119－122頁、平成23年3月〔「折り鶴」、「みずうみ」を収録；筆名、友尻麓〕

10. 「読書日記 宮内勝典『焼身』と高山文彦『父を葬る』を読む」*The Kyushu Review*（「九州レビュー」の会）、13号、99-114頁、平成23年3月〔書評／エッセイ〕
11. 「邦題のむずかしさ」『Q A Bulletin』（九英会会誌）No. 55、4-5頁、平成26年10月〔エッセイ〕
12. 「『コネティカット・ヤンキー』のゆくえ」(シリーズエッセイ「マーク・トウェインとわたし」26)、『マーク・トウェイン 研究と批評』（南雲堂）15号、42-43頁、平成28年4月〔エッセイ〕
13. 「地図の魔力」『Q A Bulletin』（九英会会誌）No. 57、1-2頁、平成28年10月〔エッセイ〕
14. 「季節の外」『砂時計 復刊第一号』（「砂時計」の会）、36-58頁、平成29年9月〔小説〕
15. 「ホームランドあれこれ」『Q A Bulletin』（九英会会誌）No. 58、1頁、平成29年10月〔エッセイ〕

〈科学研究費補助金〉

1. 「南部文芸復興期の「歴史」小説に関する文化史的研究」平成9～10年度科学研究費基盤研究（C）(2)、研究代表者
2. 「南部文芸復興期の「歴史」小説および自伝に関する文化史的研究」平成12～14年度科学研究費基盤研究（C）(2)、研究代表者
3. 「自伝のエクリチュールと黒人の自己形成に関する文化史的研究」平成15～17年度科学研究費基盤研究（C）、研究代表者
4. 「南部アグレーリアンの「伝記」作品に関する文化史的研究」平成18～20年度科学研究費基盤研究（C）、研究代表者
5. 「南部文芸復興期の文学における南部の文化的自画像の持続と変容に関する研究」平成21～24年度科学研究費基盤研究（C）、研究代表者
6. 「1940年代初頭の文学作品に見るアメリカ南部の文化的自画像に関する研究」平成25～27年度科学研究費基盤研究（C）、研究代表者
7. 「「ホームランド」の政治学——アメリカ文学における帰属と越境の力学に関する研究」平成28～30年度科学研究費基盤研究（B）、研究代表者